

♪ ぽこ あ ぽこ ♪

♪ 2019年度 *poco a poco* ♪

Nr. 12 2019年10月2日(水)

文責:プファイル・辰巳

舞台の上で 堂々と!

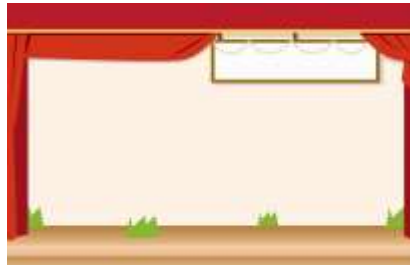
～ 一心 ～ さあ、学校祭!

気温が下がり、日も短くなり、すっかり秋めいてきた今日この頃、みなさん元気に10月を迎えられたでしょうか。学校祭が来週末に迫ってきています。ステージや照明機器などの準備も整って、体育館では子どもたちの練習が続いています。

慣れないスポットライトの光に当たり、まぶしそうにしている子、セリフをとちって声が小さくなってしまふ子、舞台袖で気を抜いておしゃべりしてしまう子……。人前で演技をしたり、声を出したりするのは、なかなか大変なことです。演劇部に入ったり、役者を職業としたりしない限り、人生の中でそう何度もある体験ではないかも知れません。それだからこそ、この機会に舞台の上に上がり、演技をしたり、歌をうたったりする楽しさをぜひ経験しておいて欲しいと思います。

演劇ではありませんが、音楽家も人前で演奏をする機会があります。始めは恥ずかしいと私も思っていたのですが、歌い切った後拍手を頂くときは、やはりうれしいものだと最近では思えるようになってきました。もちろん、本番大失敗をしたこともありますし、また失敗するのでは、という不安は常にあります。でも、やれるだけのことをやった後のすがすがしさ、拍手をもらうときのうれしさを目指して、普段の練習に臨むようにしています。

その一步一步の努力の積み重ねが、即座に本番で報われることもあれば、長い目で見て、後々実を結ぶこともあります。みなさんが今、学校祭本番を目指して準備したり、練習したりしている努力も、これからの人生の中できっと何かの形で実を結ぶことと信じています。本番の成功とともに、みなさんの成長を願っています。



音楽こぼれ話 <大作曲家の家族たち ⑥ ハイドン先生と弟ミハエル>

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン(1732-1809年)は、古典派を代表するオーストリアの作曲家です。「ハイドン先生」とタイトルをつけたのは、モーツァルトやベートーヴェンより少し早い時代に大活躍をし、尊敬されていたからです。特に、交響曲を数多く作曲したので、「交響曲の父」と呼ばれ、後世の作曲家たちのお手本となりました。



実は、みなさんがサッカーの国際試合やオリンピックで耳にするドイツ国歌のメロディは、このハイドン先生による作曲です。バッハでもなく、ベートーヴェンでもなく、しかもドイツ人ではないハイドンの作品というのが、興味深いですね。

さて、このハイドン先生は少年時代から弟ミハエルとともに、ウィーンのシュテファン大聖堂の聖歌隊で活躍していました。大人になってからは、ハンガリーの大貴族エステルハージー家の楽長として楽団員を率いるとともに、数多くの作品を作曲します。そのジャンルは交響曲やオペラなどの大規模曲から、弦楽四重奏などの室内楽、そして民謡の編曲に至るまで多岐にわたり、総数は1000曲に及ぶとされています。同時代の作曲家たちの中には、その人気にあやかろうと、自分の作品をハイドン先生の作品だと偽って、出版しようとする不届き者まで居たそうです。そして、弟のミハエルもまた膨大な数の作品を残しており、二人合わせると1500曲以上になるそうです。

昔は、ハイドンという作曲家は一人だけと思い込んでいた無知な私でしたが、何時の頃か、M. Haydnの文字を見て、「おや?」と思い、弟作曲家の存在に気が付いたという情けないお話。ハイドン先生は一人じゃなかったのです。でも有名なのはやはりお兄さんのヨーゼフの方で、「びっくり交響曲」やピアノソナタなどみなさんも聞いたことのある曲をたくさん残しています。

ほんのちょっとだけ 演奏会情報

ヴィースバーデン州立劇場 10月の演目より

バレエ「くるみ割り人形」の上演日

10月19日(土)19:30から 25日(金)19:30から
27日(日)16:00から 31日(木)19:30から